

聞け、イスラエルよ

マルコによる福音 12:28 b-34

(そのとき、一人の律法学者が進み出て、イエスに尋ねた。)「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

説教

渴きを鎮めるために読む、なぐさめを求めて読む、福音の読み方、聴き方はさまざまです。また、ひとつのみことばを掘り下げて深く聴くというやり方とは別に、福音書を見渡してというか、構造的に、神のみこころを読み取り聴き従うという読み方もあります。

和田幹夫神父の「主日の聖書を読む」からきょうの福音箇所解説を紹介します。

マルコ福音書にはガリラヤ宣教中のイエスと敵対者との5つの論争物語(2:1-3:6)が記されています。それに呼応してエルサレム宣教中の5つの論争物語があります。キリストの権威について(11:27-33) 農夫のたとえ話(12:1-12) ローマ皇帝への納税について(12:13-17) 死者の復活について(12:18-27) 最大

の掟について (12:28-34) きょうの福音はマルコ福音書に記録されたイエス論争物語の最後のものです。(以下「主日の聖書を読む」から引用)

「第一の」つまり最大の掟について問われたイエスは「イスラエルよ、聞け……」と申命記 6 章 4-5 節を引用して答えられた。これはユダヤ人ならだれでも知っている基本的な祈りの冒頭のことばである。ユダヤ教はまさに主である神を「心を尽くし」「精神を尽くし」「思いを尽くし」「力を尽くして」愛することに尽きると言えよう。他方、イエスはその掟に隣人愛の掟もレビ記 19 章 18 節を引用して加え、このように神と隣人愛をひとつの掟として教えられた。これはあまりに平凡な掟だが、真実で大切な掟でもある。それゆえ質問者も「ごもつともです」と言って引き下がらずを得なかった。

この最後の論争物語は、そのあとの終末説教 (マルコ 13 章) 受難記 (マルコ 14-15 章) と続く。最後の論争物語はイエスが何を教えたかのみならず、受難記の頂点であるイエスの死をあらかじめ説明していると考えられるべきではないか。つまり、イエスの死は「イスラエルよ、聞け」の祈りと掟の実行ではなかったかということ。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして」とは、死ぬまで全身全霊を奉獻するという事ではないか。
